

# 宗谷の「先生」をつなぐ月刊誌 Soya

# 5

2020 May vol.1

宗谷管内の魅力いっぱいの情報誌  
毎月無料で机上にお届け!

## コロナ収束後の 学校づくりをみんなで語ろう!

### 先生方と子どもの命を第一に考えた 本格的な学校再開を!

先生の働き方をみんなで語ろう  
変形労働時間制を動画で学ぼう  
授業づくりの玉手箱①「ジャマイカ」  
宗谷の空/私のおすすめ

### 変形労働時間制を 動画で学ぼう!

「1年間の変形労働時間制」の話題は、いわゆる「働き方改革」だけでなく、学校づくりの根幹をゆるがす問題や、私たちの給料の問題などたくさんの課題に関連するものです。それだけに理解するのも簡単ではありません。

この話題が国会で議論されたのは今年の秋から冬にかけて。ちょうどその頃、YoutubeとFacebookで学習動画を作成し、この宗谷から全国に向けて発信を続けました。リアクションをもらい改善を加え、新たな動画をまとめています。道議会やそれに続く市町村議会でこの「1年間の変形労働時間制」が議論される前に、それぞれの職場で動画を見ながら理解を深めていただければと思います。



2019.12.4 給特法改正案、成立。  
教育をよりよくするための力合わせを!



Youtube「先生の働き方をみんなで語ろう」チャンネル  
(宗谷の先生方の意見を生かして発信しています。)

稚内市では、この4月からタイムカードによる勤怠管理がはじまりました。みなさんの町村でもなんらかの形で導入されているはず。これは、学校における働き方改革に関する取組が徹底され、4月から在職等時間の上限が45時間/月、360時間/年と定められたからです。

この「上限」と密接に関連するのが「1年間の変形労働時間制」です。学校の1年間を閑散期と繁忙期にわけて、繁忙期には今よりも勤務時間を1時間増やすことができる制度です。学校の教職員の力合わせの視点で見るとたくさん問題があります。

「(上限ガイドラインが遵守できていない状況が続いた場合には)まずは各教育委員会等において遵守に向けて是正されるべきであると考えておりますが、~中略~休日のおまわり取りのための一年単位の変形労働時間制の活用を指定を取りやめると考えております。」



2019年11月26日の  
参議院文教科学委員会

「この「上限」と密接に関連するのが「1年間の変形労働時間制」です。学校の1年間を閑散期と繁忙期にわけて、繁忙期には今よりも勤務時間を1時間増やすことができる制度です。学校の教職員の力合わせの視点で見るとたくさん問題があります。」



来年度から1年間の変形労働時間制を始めるため、道議会では6月議会で9月議会で「変形労働時間制」を導入するための条例を制定させる見込みです。宗谷管内各市町村の学校管理規則では道の条例を読み替

職場でいっしょに  
考えてみよう!

一方で、学校現場では勤怠管理と加配定数がリンクして考えられがちです。ゆえに道から市町村、各学校へと下りてくるにしたがって自然と締め付けがきつくなることは容易に想像できます。

- ①在校等時間の上限については、決して、教員等に上限時間を遵守することを求めるのみであってはならない。
- ②形式的に上限時間の範囲内とすることが目的化し、実際の時間より短い虚偽の時間を記録し、又は記録させることがあってはならない。

「上限」を守れない状況では「変形労働時間制」は導入できないと明確に答えています。道教委は勤怠管理について次のように考えています。

えるため、道条例の可決とともに学校に変形労働時間制が導入されることとなります。各職場で「上限」と「変形労働時間制」を正しく理解し、私たち自身の働き方について職場ぐるみで考えることが大切にあいまい



宗谷の「先生」をつなぐ  
月刊誌「soya」2020.5  
発行日 2020.5.1  
発行 宗谷教職員組合  
発行人 古川 正史  
〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館  
☎0162-22-2480 メール info@soya-teachers.org

### 私のおすすめ

3密を避けた余暇の過ごし方。私のおすすめは、「釣り」です。宗谷は、海に囲まれた土地柄で、色々な魚が釣れて楽しい漁場がいっぱいです。猿払にいた時は、穴釣りです。30cmオーバーの黒ソイをよく釣っていました。稚内でも、カレイやカジカなどが釣れますよ。季節も和らぐ今日この頃、気晴らしに日光浴をしながら、釣りなんてのはいかがでしょう。



【潮見が丘小学校 長畑幸太郎】

### 編集後記

何かと慌ただしく不安が尽きない毎日の中で、ちょっとでも「宗谷の先生」ということを共通項に、ほっこりしあうことができれば…。そんな願いを込めての宗谷情報大リニューアルです。月に一度、あなたの机にお届けします。

コロナウイルスの感染防止のための様々な対策が必要で、今回の紙面も関連する話題が多くなりました。来月はさらにほっこりする記事も盛り込みたいと考えています。新しくなった「宗谷情報」、ぜひおいしいお菓子なんかをお供に楽しんでいただければと思います(naity)。

# 宗谷の空

学校の行く末が見えない中、モヤモヤすることもありますよね。でも、話せばちよっとすっきりします。あなたのそばに宗谷教組の仲間がいます！

最近、学校をどうするかでモヤモヤすること、ありませんか？

休校すべき？健康面が心配…オンライン授業！  
でも、職員会議ではなかなか言いにくいなあ

そのモヤモヤ、誰に言えばいい？ってあるのかも。

職員会議で言ってもなあ学校だけじゃ判断できないだろうし  
市役所  
教育委員会が子どものコト大事に考えてくれたら…  
もうこれは、日本全体の問題だ！でも、どうやって意思表示する！

こんなときこそ職員組合。様々な相手と対話をして、理解と納得を求めあうことができます。

〇〇のお願い (要請書)

こんなときだからこそ知恵を集めると打開策が見えてくるものです。集えなくても、つながりあって、現状を伝え合う。そこには職員組合があります。さあ、いまあなたができる力合わせをいっしょに進めましょう！

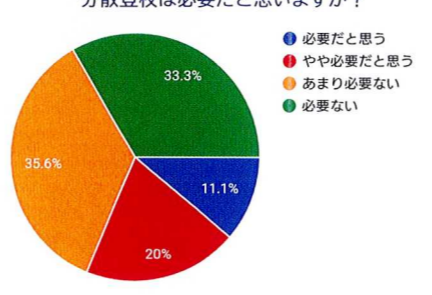
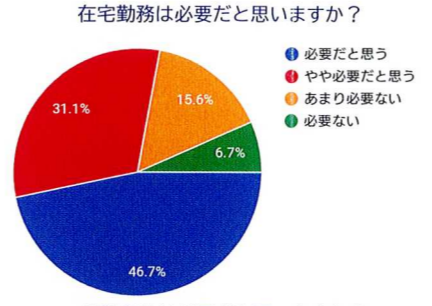
## 先生方と子どもの命を第一に考えた本格的な学校再開を！

宗谷教職員組合では、4月21日から23日にかけて、「一斉休校」に関わって「在宅勤務の必要性」と「分散登校の必要性」について宗谷管内の先生方を対象にインターネットでアンケートを行いました。短時間にも関わらず約50名の方に回答をいただきました。

まず、4月中旬から制度化された「在宅勤務」。必要だと約80%の方が「必要/やや必要」と回答しています。制度化から半月ほどが経過し、少しずつ浸透してきています。職場でお知らせされていない場合は管理職に相談しましょう。

つづいて「分散登校」について。約70%の方が「必要ない/あまり必要ない」と回答しています。アンケート実施時期と、宗谷管内で感染者が確認された時期が重なったためこのような結果になっていると考えられます。

一方で、「子どもたちは学校に来たがっている。それを迎える責務がある」という声があることも合わせて紹介します。私たちはまさに、「子どもたちのための学校のあり方」と「子どもたちの命と健康を守る」ということを同時に考えなければならぬ非常に難しい立ち位置に立たされています。まずはこの状況の収束と私たち教職員、そして子どもたちとその家族のみなさんが健康であることを第一に考えながら、本格的な学校再開後の教育課程づくりを考えていきたいものです。



新型コロナウイルスは一旦終息の兆しを見せましたが再び道内で広がりを見せています。鈴木知事からの要請もあり、全道で再び臨時休業となりました。昨年度末の休業も合わせると、影響はとても大きなものになっています。学習内容

「未履修」問題  
状況として一番大きな課題は授業時数です。いわゆる未履修問題です。「やれていないから不安」という思いは誰もが持っているでしょう。「ネットで配信・学習」という方法も可能でしょう。

行事と集団づくり  
運動会の中止が決まったところもあります。修学旅行や学芸会・文化祭などの検討もされているでしょう。私たちは行事を通じて、普段の授業ではできない「集団づくり

# コロナ収束後の学校づくりをみんなで語るろう！

は…、行事は…、様々な不安が子どもたちを取り巻いています。そんな子どもたちの姿から、まずは状況を整理し、私たちは「どんな力をつけたいのか」を一致させる必要があります。

う。しかし、理解できているかどうかまでは把握しきれません。未履修だけを取り上げるならば、「やればオッケー」という考えにも至りかねません。未履修問題は未定着問題と捉える必要があります。

## こんにちは！宗谷教職員組合です。

私たちは宗谷管内の教職員で組織される職員団体です。略称は宗谷教組(そうやきようそ)・宗教組(そうきようそ)です。子どもたちの姿を中心に据えながらより良い教育を求めています。

宗谷教組では毎年四月に「春の学校づくりの懇談資料」を校長先生や教育関係者と読み合い、「子どもの笑顔のためにみんなと力を合わせて頑張ろう」と確認しています。具体的な取り組みとしては授業づくり・集団づくり・学校づくりです。学級担任、教科担任、管理職、事務職員、養護教諭や栄養教諭…それぞれの担当は違えど、子どものために頑張ることに違いはありません。目の前の子どもたちのために、みんなで力を合わせていきましょう！

## 授業づくりの玉手箱 No.1 ジャマイカ



こんな状況の中で子どもたちが「やっぱり学校って楽しい！みんなが勉強するっていいなあ！」って思える授業づくりを進めたいです。でも、実際の子どもの体力が持たなかつたりして「6時間授業がとらなくて…」という現状もあります。

こんな中で私たちは1時間の授業にメリハリをつけたり、みんなが知恵を寄せ合って和むような、ハンドルの「アソビ」と同じような瞬間を意識できたらと思えます。今回は小学校四年生以降の算

数・数学で遊べるおもちゃをご紹介します。「ジャマイカ」というおもちゃです。以前に「学び愛フェスタ」でも紹介して大反響だったおもちゃです。

「白い1〜6の5つの数字を四則計算して、黒い数字を足した数にいち早くできた人が勝ち！」というゲームです。この例だと「1・1・3・3・3・6」を一度ずつ使って「21」にします。例えば、3と6をかけて3を足して、1と1をひいて0にする…といった感じですね。Amazonや楽天、YAHOOショッピングで「おもちゃ・ジャマイカ」と検索すると出てきます。



今こそ民主的「学校づくり」を  
学校再開後に向けて、今から知恵を寄せ合います。私たちには何ができるのだろうか？ではなく、「私たちがだからこそこれができる！」とポイントをみんなで確かめ合う…そんな力合わせを進めましょう。